

小 さ き 詰 石 (三)

鯉 城 生

氣品の高い白梅と色香の深い紅梅とを先導として、早今年も佐保姫が霞の裾をひいて下界に下り立つた。世の不景氣などには心を留める様子もなく持前の陽氣な氣分を天地に漲らして、老樹と云はず若木と云はず、爪を染めさしたり口紅をさゝしたり、名もない道端の雜草にさへ色とりとりの帽子を被らし手袋を箆めさせなどして新装にをさをさ怠りない。今に緑の髪を總々と女神の姿を如實にこぼれるような愛嬌を述べ、花の盃を高くさしあげて春の歌を小鳥に歌はせ、昭和四年の春をはしやぎ廻らうとするのだらう。不景氣々々々で消極退嬰を是事とし因循姑息な思案ばかりして居ても景氣のよくなる譯のものではない。佐保姫に誘惑されてもよい、春だけなりと景氣よく暮したいものだ。

い、いらの多かつた今議會の收穫の中でも豫算だけは成立して、ちと未だ不十分ではあるが新しく産業道路費が生れ一般道路改良費も幾分増額されたので、今年の春は私等にとつては愉快な春だ。これが素因となつて道路改良の機運が一層促進され、一般交通が圓滑となり、産業の振興地方の開発ととん／＼拍子に進んで行つたら不景氣風は陽氣な歌聲に代り、ほんとに愉快に花の春を謳ふことが出来るだらう、否其の時機を早く現實に持ち來すことが私共路政の端に携はつて居る者の緊要な務めであり、今や吾人の更に一段の覺悟を要するの時である。だが私がこんなことを言つてる間にも雪解けの爲に車輪の軸も没する計り泥土にめり込んで馬車馬が難澁したり、未だ全く車の通行し得ない

如うな氣の毒な國道や府縣道が彼岸過ぎの此頃東北北陸の地方にはあるだろう。それどころではない五六月の候といふに冬季日陰の爲に乾きが悪く、夏の間に折角布き込んだ砂利が底知れず沈没して働き返しの麥田のようになり、自動車に乗つて居て麥藁帽子の一つや二つは一里足らずの道程の間に壞れようといふ位天井に頭を打ちつけねばならぬ程の悪い道が九州にさへある。之等は天候と地理に據るものと元より甚だ多いがそればかりに罪をなすつて置いてよいものだろうか私は今の時に當つて道路管理者も利用者も共に之等の點に迄深く思ひを致すべきではなからうかと思ふ

▽ △

近年學者の間に廣く歴史的研究が盛んになり、經濟史等の研究に伴れて交通史道路史の研究に迄没頭する人の出て來たことは、私共の大いに意を強うする所であるが、之等のことは暫く其の人達の研究に委ねて置いて、私は一躍大正八年現行道路法の制定公布により、我國の道路法制茲に完備したることを記述するに止める。

我が道路法は、道路の種類等級及路線の認定、道路の管理、道路に關する費用其他の七章に分つて規定し、此外道路法施行令其他多數の附屬命令に依つて道路行政の體系は殆んど完備して居る。雷に形式的に完備した計りでなく、殆んど之と同時に樹立された道路改良計畫と相俟つて、實質に於ても道路改良の實績は著しく擧り、殊に晚近頃に發達した高速度交通機關の需要に促されて道路の改良の必要は愈切實を加へ、政府の助勢政策と歩調を合せて地方に於ける道路の改良熱は最高潮に達した。試みに昭和四年度に於ける各府縣の國道府縣道の改良費を調べてみると約七千三百萬圓の鉅額に上り、大正十三年度のそれに比して約五千餘萬圓の増額を示して居る。そしてその大部分は爾後數ヶ年の繼續費となつて居て後年度に至る程幾分多額を計上されて居るから、唯これ丈に就ても其の事業完成の曉には地方の幹線道路の幾分は概ね近代交通の實狀に適應するものとなり、之が一般社會に及ぼす經濟上の利益は甚だ大なるものがあると信ずる。だが之等事業は府縣のあり餘る財

力によつて道樂に爲されるのではなく、直接には國民の福利増進の爲なけなしの財布を傾けおまけに其の大部分は差向起債に依つて其の費用に充てるのである。而も道路は造りつばなしでは其の效用を完ふするものではない、常時怠らざる維持修繕をしなければならぬ。比年自動車の数に著しく増加の傾向を有し、道路の一般交通亦年と共に繁激を加へつゝあるのだから、道路の施設宜しきを得利便を増すに従つて道路の利用は更に一層の増大を來す、將來道路の維持修繕費の嵩むことも當然覺悟せねばならぬ。併し國道府縣道の改良を要するものは尙甚だ多い、殊に府縣道は未だくゝ其の延長に於て増加するようだし、地方的配分の關係もあるから之等の改良を等閑に附する譯には行かぬ。府縣の財政實に多端なりである、自然國道府縣道の延長及改良の割合には維持修繕費は増加し得ない實情にある。府縣の道路橋梁に關する大正十四年度維持修繕費は約千八百萬圓であつたが、其後幾分の新設改築も爲され府縣道の延長も増加して居る、昭和四年度の豫算額は約千九百萬圓で僅

に百餘萬圓の増額を示すに過ぎぬ。これ丈の經費では瘁い所に手の届くように維持修繕の行はれる筈のものではない。何とかして之に對する緩和策を講じなければならぬ。

▽ △

道路法の制定に依つて道路行政の統一完備は出來たが、そして一般に道路改良の必要を認めるようになり道路改良の聲は愈々大きくなつたが、直接に道路を利用し最も多く利益を受ける人が、眞に如何程の努力をなし犠牲を拂ふ覺悟で居るか。府縣が國庫補助の多からむことを希望するのは何等咎むべきではないが、町村長は町村道を府縣道に移管して其の改築維持の負擔を免れようとし、地方民は府縣道又は町村道なるが故に當然管理者の維持修繕すべきものとしてどんなに損壞しようが恬として顧みない。之が道路改良の必要を叫び之を希望する者の態度であらうか、府縣道移管を強調し道路の維持修繕の責を他に轉嫁することが道路熱盛んなりといふのだろうか、此項自治尊重の聲が喧しいがどこに自治的精神があるのだろうか。道路行政の統

一完備したことは道路法制定のお蔭であるが、私は今更に法律完備して醇風美俗漸衰の兆あることを甚だ憂ふる者である。元より世が複雑となるに従つて醇風や美俗ばかりに期待出来ないから法律に依つて規律する必要も生じて來、又敢て制裁とか拘束といふ様な意味でなく事の性質上、或る規格に依らしむるを便宜として法令の形式を以て定められる事柄もあるのであるが、少くとも國民の間に道義心が強く漲り醇厚俗を爲す場合に於ては、強いて法規を傳家の寶刀として眞向に振り翳さなくても自ら其の内容は事實として顯現さるべき筈のものである。道路工事は管理者の職權に屬するものではあるが、公益を念懸ける篤志家が社會國家の爲地方交通の利便を思ひ、自ら進んで道路工事を爲すことは道路法に於て少しも之を沮むものではない、否之あることを期待して丁と第二十四條に其の道を開いて居る。負擔の衡平の爲且は財源捻出の爲道路法には特別負擔として所謂受益者負擔並に損傷負擔の規定を設けて居るが、私は色々と面倒の伴ふ之等の規定を適用しなければならぬことは餘り好まない。私人の手で道路の新改築を爲すことを要求するのはちと無理かも知れないが、關係町村又は關係地方民が土地其他應分の寄附を申出ようだつたら、當局はどんなに工事の執行が容易だか知れない。維持修繕に至つては古來の慣習に従つて講中又は村内各部落民申合せて年數回總動員で役務に當り、一家族一個人誰でもが特に損傷の部分に應急の手當を施し、砂利一荷でも打ち撤く心懸けで居たら、公衆はどんなに助かることだろう。地方團體の維持修繕費は管理者に依つて更に有効に活用されるに違ひない。それに之等の事はなるべく人になすりつけようとし、甚しきに至つては折角管理者に於て道路の新改築をなさむとするに當つて、自己の所有地に方外の價額を主張して暴利を貪らむしたり、受益者負擔を裁判沙汰にするなどとは何たる獅子身中の蟲だろう。人間の意地汚なさは今に始つたことではないが、自己の逸樂の爲には萬金を投じて敢て惜まざる骨身を削つて尙飽き足りない者が、自己の利益に直接反映しない社會公益の爲には一錢をも出

し惜み隻手の勞をも厭ふ、膏に惜しむばかりか公物公共物だといふと寧ろ濫用して顧みない。或る都市では道路の不法占用や砂利泥棒位は朝飯前のお茶漬けを食べる程にも心得て居ない連中が多い、これが現代思想といふのだろうか、誠に慨歎の至りではないか。

▽ △

私は昔ながらの幼稚な考へを持つて居る。一體人といふものは何でも自分の手鹽にかけた物は大切にする、愛著心が強いものだ、同じ手鹽にかけたものでも人手に渡してしまつた物よりも絶えず手慣づけるものの方が可愛い、人の物でも常に自分が手入して居ると情愛が移つて自分の物の様に大切がる、これが人情だ。そこで私は世の人々に切望する、日々其の惠澤を蒙つて居る地方の道路をこの心を以て愛護して見て下さい、あなた方の愛執が強ければ強い程道路は皆さんの意に副ひ其の用をよく助けて呉れるでせう。局に當る人々はこの人情の機微を捉へて利用して、地方人、青少年團、在郷軍人團、處女會等それらに其の力

に相應しい其の土地に適當した統一ある奉仕を勧めて頂き度い、數年前來廣島縣兵庫縣其他で試みられた道路共進會など假令一時的のものだとしても結構、之等の方法を更に有効適切な持續的なものたらしめる事は、賢明なる諸彦の各特色ある研究に期待する。

勝鬘經に「世尊我れ今日より菩提に至るまで内外の法に於て慳心を起さず（自分一個の樂を食つたり社會公益の爲に寄附を出し惜んだりせぬこと）。世尊吾れ今日より菩提に至るまで自ら己が爲に財物を受蓄せず凡て所受あれば貧困の衆生を熟せしむることをせむ。世尊我れ今日より菩提に至るまで自ら己が爲に四攝法を行せず一切衆生の爲の故に無厭足心無罣礙心を以て衆生を攝受せむ」と説かれてある。そして我國では聖德太子が推古天皇に天皇が是の精神を以て國政に臨ませられるやうに御進講申上られたと云ふことである。世の多くの富豪達は慚死すべきではないか。自分の五欲の充足にのみ奔命して他を顧みないならば、やがて自ら墓穴を掘ることゝなるう。神社佛閣等に寄進布施する

ことも悪いことではないが、それよりもつと社會的な現實な公益の爲に盡したらどうか、尤も親しく道路の新設に當る必要はない、道路改良費なり維持費なりに出費を爲すことは最も効果ある社會的事業であり、諸彦の生命を永遠ならしめる所以でもある。寄附することは必ずしも富者に限つたことではない、貧家の一燈の諺もある、真心の籠つた一日の勞役一圓の金は寶玉よりも貴く光り輝く。

往古佛教徒は盛んに社會事業に盡したものだ、而も事業の根本は道路の改修であつて更に教育に殖産興業に力を致した。我國に於ては行基、空海等の盛んに道普請をした事實は普く世に傳唱されて居る所であり、大の佛教信奉者聖德太子を始め最澄、親鸞、蓮如、夢窓、道慈其他幾多の名僧等が築道、開墾、疎通等の社會事業に盡瘁した史實も亦世に隠れない事柄である。社會の教育者、世の救濟主を以て任じて居る佛教家は今何を夢みて居らるか。經に「種々の人天の財に著せず是の欲愛に起愛せよ刹那も空しくする勿れ一瞬を空過するものはやがて地獄にありて苦しま

む」と説かれてあるではないか、諸盜の中には時盜を以て最第一となす」と教へてあることは十分お心得の筈である。歲月遷り社會世相の變つた今日元より往古の傑僧の鴻業を諸師に期待しては居らぬ、だが葬式請負業に没頭して布施の多寡に依り讀經に等級を分つたり念佛の後光に隠れて偷安を貪つて居るような今の衣を脱ぎ捨て、釋尊弘道の昔に還り人間教たる佛教の本義に従ひ假令事業に親しく手を下さないまでもこの心を以て真劍に社會教化に盡して貰ひ度い、農村の今日行詰りに對しては未だ諸師の活動に俟つべき事が多い、そして先づ道路の修繕維持等を自ら陣頭に立つて勸説獎勵することは最も手近い生きた教義であらう。

▽ △

終りに茲に一二の小話を挿む。日清戦役以來軍事上有名となつた廣島の宇品港は、時の縣令千田貞曉氏の血と精魂の結晶とも云ふべき宇品埋立工事の完成に依つてあの大任務を果したのである。當初縣民多數難事業として反對したるに拘らず氏は國家將來の爲にと斷乎として之を敢行した

のだつた。工事半ばに幾度か激浪に没はれ津波に襲はれ縣豫算は不足を告げたが、縣財政は極度に逼迫して縣民に此上の課税も不可能の状態に在り、怨嗟の聲は巷に充滿し工事を中止するの外なかつた、が中止すれば巨萬の黄金は永へに浮ぶことなく海底に沈落されたことゝなる、氏はこの窮境に在つて如何に處したか、恥を知り責を重んずる氏は武士であつた、之を果さざれば死元より辭する所にあらずとして先づ自己の財を悉く投じ、令夫人の頭髮の飾具に至るまで金に換へて工事を持続した、赤誠は天に通じ人の心を動かして遂に能く難事業を大成したのであつた。其の功績を永へに傳ふべく今は宇品町御幸通のとつかゝりに記念碑が巍然として宇品灣を睥睨して居る。

過般の河川改修に關する岐阜縣民の騷擾問題から私は端なくも次の史實を想起して感慨無量だつた。九代將軍宗重の命によつて薩隅日三國の大守島津重年の重臣平田鞞負、伊集院十藏の兩人が、難中の難工事たる美濃伊勢尾張の三ヶ國に跨る木曾榊斐長良三川の治水工事の大任に當り、寶

歴三年から五年に亘り大災に耐へ苦闘を續けて遂によく之を完成し、藩主の面目を立て沿岸農民の慘害を永遠に取り除いた。其の功績實に大なりと云ふべく、一體功名赫耀と藩國に錦を飾つてよい筈なのだが、兩士は豫算以上の大金を消費し藩君に迷惑をかけたことに重責を感じ、油島の突堤に座して渺洋たる大江を挾んで長蛇の如く連る長堤に堯爾として最後の一瞥を呉れて自刃し其の守護神と化した。輝光ある武士道の精華は其の責を分ち兩士の後を逐うて堤上の露と消えた工事關係士分以下百數十人の忠魂と共に今も尙油島千本松原に一基の表彰として傳へられて居る。

私は今の道路管理者に私財を投じたり切腹することを勸める者ではないが、上述兩者の責任感の如何に深いかを味つて貰ひ度いのである。この心して是丈の覺悟を持して工事設計に當り工事の完成を圖られたなら、我國の今の財力を以てしても尙道路改良の實績の更に見るべきものあるに至ることは期して待つべきだと思ふ。敢て當事者の一段の覺悟を促す所以である。